

そばた 蕎麦田遺跡(本発掘調査B)

所在地 岩倉市大地町
(北緯35度16分31秒 東経136度51分45秒)

調査理由 道路改良工事(交付金)(主)春日井一宮線

調査期間 令和5年10月～令和6年1月

調査面積 1,028㎡

担当者 堀木真美子・酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「一宮」)

調査の経過 調査は道路改良工事(春日井一宮線)に伴い、愛知県民文化局を通じた委託事業である。遺跡は、愛知県埋蔵文化財調査センターが平成29年度に16㎡、令和2年度に32㎡の試掘調査を行っている。この結果に基づき、今回の調査は遺跡範囲の東から西にかけてA区134㎡B区59㎡C区48㎡D区330㎡E区245㎡F区98㎡G区111㎡の7調査区を設定し、総面積1,028㎡である。調査はB・C区より開始し、G・F区、A・D区、E区の順序で実施した。また、全て一面調査で基盤面で遺構検出と遺構掘り下げを行った。

立地と環境 遺跡は尾張平野五条川左岸の沖積低地に所在する。古墳時代以前に存在し、遺跡範囲内において南北方向に走る旧河道の後背湿地を中心にして東西に沖積微高地が広がる。遺跡はこの微高地上に展開する。遺跡の南側には大地遺跡が存在する。

調査の概要 調査によって北西から南東方向に走る旧河道に伴う後背湿地がD区で確認されている。この東側(A～C区)と西側(E～G区)に広がる沖積微高地上で遺構が検出された。遺構・遺物は主に古墳時代、平安時代、近世の3時期に属する。古墳時代前半の遺構としてA区で溝3条、E～G区で溝7条が検出された。古墳時代後半はD・E区で溝4条が検出された。これらは南北方向の溝である。平安時代の遺構としてはE区で南北方向の溝1条が検出された。その他、時期不明の南北方向の溝が2条検出された。近世の遺構はG区西端で南北方向の溝1条が検出された。遺物は古墳時代の土師器と須恵器、平安時代の灰釉陶器と須恵器が出土した。近世の溝からは瀬戸窯産陶器類などが出土した。

まとめ 古墳時代の遺構として溝のみが遺存している。これらは集落に伴うものである。竪穴建物、掘立柱建物および土坑などは確認されない。後世の土地改変によって沖積微高地が削平され、溝以外の遺構は消失したと考える。D区の旧河道を中心に東側と西側に古墳時代集落が展開する。平安時代の遺構は溝のみ1条が検出され、集落に伴うものと考えられる。近世の溝は幅が広く、流水の痕跡が認められることから水路ないしは小河川と推定される。

(酒井俊彦)



遺跡全景(北西から)



D区旧河道セクション(北から)



F区古墳時代前半溝群（南西から）



A区古墳時代前半溝群（南西から）



G区古墳時代前半遺物出土状況（西から）



E区遺構完掘状況（西から）



E区古墳時代後半遺物出土状況（南から）



E区平安時代溝（南から）



E区平安時代遺物出土状況（北から）



G区近世溝（北から）